

連載

みんなで盛り上げよう！
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

東京2020参画プログラム 認証事例紹介

京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
山城ブロック

オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が東京2020参画プログラムとして実施したオリンピック・パラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

1 企画経緯

8クラブの協働で山城ブロックの事業に発展

2014年に「『3.11 忘れない』あなたにもできることが、きっとある」と題し、東日本大震災の追悼と世界平和への願いを込めたプロジェクトとして総合型クラブから全国各地へ発信されました。このプロジェクトはクラブ単位で実施されていますが、京都府では1クラブでこの事業を実施することは難しかったため、8クラブが協働して山城ブロックの事業として実施することで可能となりました。そして、2018年度は山城ブロックで企画・検討を重ね「追悼」「復興支援」に加え「被災時に対応できるスキルを身に付ける」ことを目的とし発展的に事業を継続しています。

また、これとは別事業で支援学校と連携・協力して、障がいをもった子どもたちと一般の方とが分け隔てなく参加できる「ポッチャDE祭り」というポッチャの交流大会を実施しています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックが間近に迫ってきていることもあり、パラリンピック競技であるポッチャと復興支援事業であるこのイベントを繋ぐことで、復興五輪といわれる東京オリンピック・パラリンピックを契機に更なる広がりが出てくるのではないかというアイデアがあり、東京2020参画プログラムに申請するに至りました。

2 企画内容

地域住民の防災意識を高める事業
災害時の対処法等の講習を実施

- 防災バッグを作ろう
- 救命・AED講習
- 健康運動教室
- 黙とう・シャボン玉セレモニー



〈目的〉

近年、日本は豪雨や台風、そして地震など多くの災害に見舞われています。いつ襲ってくるかわからない自然災害に直面したときは、被害を最小限にとどめ、落ち着いて正しく判断し行動することが大切です。日頃から防災への意識を高めることで、隣近所や高齢者世帯に声を掛け合うことができる「地域づくり」と「防災」について考え、総合型地域スポーツクラブができる共助、一人ひとりができる自助について共に考える機会をつくれます。

クラブが協働することにつながりを広げ、総合型地域スポーツクラブの活動の充実と質の向上及び活性化を図ることを目的としています。

〈事業コンセプト〉

- (1) 地域スポーツクラブのネットワークを構築し、地域住民の防災意識を高める。
- (2) 災害時に被災者の心身のケアや健康維持ができるスポーツプログラムの紹介を行う。
- (3) スタッフと参加者が一緒になって災害時に対応できるスキル等の研修を行う。

〈内容〉

災害時の対処法をテーマに5人の講師を招いて、災害に役立つ豆知識講習コーナー、救命・AED講習コーナー、災害時の運動教室、ポッチャ体験コーナーの4つの講習を実施しました。災害に役立つ豆知識講習コーナーでは新聞紙を使って紙食器を作ったり水が使えなくなった場合を想定してゴミ袋と乾燥剤を使って非常用トイレを作ったりしました。救命・AED講習コーナーでは赤十字救急法救急員による講習が行われました。災害時の運動教室では災害時を想定して道具を使わず笑いを交えて楽しく行われました。ポッチャ体験コーナーでは体育館ではない地面の凹凸もまた別の面白みが出て、子どもたちにも人気でした。

14時46分には、参加者全員で全国の災害に見舞われた被災者に向けて黙禱を行いました。また、今年度も企業を招いて、災害時でも活用できる浄水器の紹介コーナーを設けました。

〈スケジュール〉

9:30 スタッフ集合、打ち合わせ及び会場設営

11:00 開会式

主催者挨拶・クラブ紹介・日程説明・講師紹介・企業協力紹介

11:15 (1) 災害に役立つ豆知識講習コーナー

- ①防災バッグ作り
- ②紙食器作り
- ③簡易トイレの作り方

13:00 (2) 救命・AED講習コーナー

救急車が来ない前提での処置方法、救助→救命の流れ

- ① 身近な人の命を守ろう
- ② 心肺蘇生とAED

13:45 (3) 災害時の運動教室「限られた場所での運動」

椅子に座ってストレッチ等＝エコノミー症候群を防止

(4) ボッチャ体験コーナー

山城ブロックが支援学校と連携し大会を実施しているボッチャの体験会

14:00 閉会式

セレモニーと黙とう

会場の皆さん全員でシャボン玉に想いを込めて黙とう

15:00 終了・片づけ



紙食器作り



非常用トイレ作り



心肺蘇生とAED体験



災害時を想定した運動教室

参加者の声・反応(実施後)

会場である山城運動公園には、一般来園者の親子連れが多く、チラシを配っての呼びかけも行われました。このイベントを目的として来園されていない方々は参加することに躊躇(ちゅうちょ)されていましたが、ポータブルトイレがいくつも置かれている光景を目にして興味を示され参加される方や、救命・AED講習コーナーでは真剣に講習を受けられる方の姿が見られました。また、災害時の運動教室では、「広い公園内で椅子に座ってする運動は気持ちがいい」という声がありました。ポッチャ体験は子どもたちに人気があり、とても楽しそうに体験していました。

運営側の声(実施後)

- ・ 反省点としては、来園者が少なかったことが一番に挙げられます。当日までの期間に各クラブから広報を行っていましたが、広報時期が遅かったことと、各クラブでチラシの印刷を任せていたこともあり、広報活動が不足していたことが反省点となりました。チラシの印刷はまとめて業者に発注し、早めのPRと広く一般への広報が必要でした。
- ・ 参画したクラブの会員が参加しやすいような工夫ができていれば良かったと思います。一般府民向けにPRするだけでなく、もっと身近なクラブ会員に多く参加してもらえる企画も考えていきたいです。
- ・ 当日、4つのコーナーのうち3つを専門家の講師にお任せしたことで、運営スタッフである自分たちもそれぞれのコーナーで防災について学ぶことができとても良かったです。
- ・ 黙とうの際にシャボン玉を使いましたが、子どもたちがとても興味を示し賑わったことから、来年度は黙とうの際だけではなく、人を引きつけるための手段として活用してみたいです。
- ・ 子どもには興味を引くものがあつたようですが、大人には「何をやっているのかなあ」という冷やかな様子も見られたので、大人を引きつけられるような工夫も考えていきたいです。例えば、体験先着〇〇名様に防災グッズプレゼント等の推し方も良いかもしれないと思います。
- ・ 今回で4回目の開催になりますが、今回の内容はとても良かったと思います。このイベントが「行ったら、たまたまやっていたイベント」ではなく、このイベントを目的に来てくれる人を増やしていきたいです。



ポッチャ体験



シャボン玉に想いを込めて黙禱

4

各ブロックの事業が充実し、結束も強化 更なる自立に向け事務局移行も検討

総合型クラブが主体になることで、各クラブ間の関係性を活かし、いざというときに迅速にクラブが連携して取り組みを行うことができるネットワークを構築できました。

被災者の心身のケアや健康維持ができるスポーツプログラムの体験、救命・AED講習、限られた場所で行える運動教室、パラリンピック種目であるボッチャ体験など、様々なプログラムを体験することで災害時に取り組みができるアイデアを得ることができました。実際に災害が起こったときに地域で対応できる力を身に付けられるよう、今後も継続してこのような事業を実施していきます。

また、京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会としては、今年で新体制になって5年目を迎え、各ブロック内での結束が強化され、それぞれのブロックの特徴が発揮された事業が多く生み出されるようになってきました。現在、同協議会の事務局は府スポーツ協会が担っていますが、今後更なる自立に向け事務局の移行も検討されています。

山城ブロックでは、ブロック事業を展開した結果①～③の事業方針がまとめられました。

- ①本事業を通じてクラブ間の連携を図る。
- ②本事業を通じて新しい事業モデルを発信し、各クラブの事業力向上を図る。
- ③本事業を通じて総合型地域スポーツクラブの啓発に努める。

現在、5年前には想像も出来ないほど自主的な活動ができてきています。今後も各ブロックの事業を継続して実施していくことでブロックの発展、京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の発展を目指し、ひいては一番大切な各クラブの発展に繋げていければと思います。

(京都府スポーツ協会クラブアドバイザー 勢子 由紀子)

■参画プログラムとは■

東京2020大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン：「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト：「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

この大会ビジョンとコンセプトを基に、日本国民の方々が、東京2020大会に参画(アクション)し、そのアクションの成果を未来につなげていく(レガシー)ことを目指し「アクション&レガシープラン2016」を策定しました。そして、このプランを達成するために、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会に向けた参画・機運醸成等に向けた「アクション」を実施できる仕組みが「参画プログラム」です。

「参画プログラム」には「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、地域の非営利団体等を対象とし、より多くの方々が参画できることを目指すものが「応援プログラム」です。

応援プログラムの具体的な申請方法等については、[コチラ](#)



【東京2020応援マーク】

連絡協議会プロフィール

設立年月日 平成17年5月29日

所在地 京都府

特徴 平成27年度から運営委員会が設置され、連絡協議会の自立に向けて取り組んでいます。地域別に4ブロックに分かれており、それぞれのブロックで自主的に企画・運営し事業を実施しています。ブロックでの事業を活発に行うことによりクラブ同士の横のつながりが強化され、情報や知識を共有することで各クラブの発展につながっています。また、連絡協議会自体の体力を付けるための方策として、グルメリレーマラソンなどの収益事業も実施しています。

連絡先 601-8047 京都府京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館3階
公益財団法人京都府スポーツ協会内
TEL 075-692-3423 FAX 075-692-3457
E-mail club-info@kyoto-sa.com(代表)
URL <http://sports-net.kyoto-sa.com/>